

氏 名：山本 貴之

派遣元：静岡県

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：総括担当

内閣府防災で1年研修を経験し、災害対応は人のつながりが重要であると強く認識しました。予防から復旧復興まで幅広い業務が防災にはある中で、当たり前の話ですが一人では対応しきれないものです。内閣府防災の研修の中でこういった業務があるのか、どれだけの規模で行っているのかを知ることが出来たのは今後の防災業務に携わる中で大きな収穫であったと思います。ここで得た人脈を今後も活用し防災行政の推進を図っていきたいと思います。

氏 名：牧野 吉樹

派遣元：NEXCO 東日本

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：総括担当

民間企業から国に来て、仕事のやり方の違いに驚きました。正確性かつスピードが求められる業務に毎日のように追われ、説明力と機転が重要だと感じました。

激務の中でも熱量をもって仕事をされている方が多く、その姿勢を見習わなければならないと痛感させられました。

研修生活では多くの人とのつながりを育むいい機会になったと思っています。このつながりを公私にわたって大事にしていきたいと思っています。

氏 名：畑中 優志

派遣元：宮崎県

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：総括担当

県から国に来て、まず仕事のやり方が全く異なっており戸惑いました。具体的には、まずテレワークが推奨されており、自分の業務端末を持ち運びできるため、それぞれの事情に合わせた仕事の仕方ができると思いました。また、業務の了の取り方で、県ではほぼ全ての業務において紙で決裁をとりますが、私が所属した室ではほとんど資料や口頭で説明して了を取っておりました。正確性かつスピードが求められる業務のため、このような仕事の進め方で、準備と説明力が重要となると感じました。

さらに、国の職員の方々と共に働く中で、仕事に対する熱量、限られた時間の中で最大限成果を残すための仕事の進め方、日頃からのコミュニケーションの大切さ、視野の広さなどとても多くのことを感じ、自分の公務員生活の中でも特に刺激になる1年間でした。

氏 名：岡崎 竜也

派遣元：ソフトバンク株式会社

派遣期間：派遣期間：令和3年4月～令和5年3月

所 属：災害緊急事態対応担当

国と民間では災害対応の視点が異なるため、国の災害対応すべてが出向元の対応にマッチしているわけではないが、国が示す各活動のタイムラインについては、各タイムスタンプにおける各省庁の動きがから、「その時にどのようなニーズが求められるのか」「それについてどう動いていくべきか」を考えていくのに大変参考になりました。

また、内閣府防災には様々な地方公共団体や指定公共機関からの出向者が集まっていることもあり、国の施策に対して、同じ移動通信事業者である株式会社NTT ドコモやKDDI 株式会社からの出向者と本音ベースで意見交換を行えたことは大変有意義であり、出向中ならではの体験がありました。

出向中に築いた人脈を活かし、これからもライフライン（通信）を守る一機関として、責務を全うしていきたいと思っています。

氏 名：蘆村 亮太

派遣元：奈良県

派遣期間：令和3年4月～令和5年3月

所 属：災害緊急事態対応担当

災害緊急事態対応担当において、発災時における関係機関の応急対策活動に係る計画の改定作業や室内の総括業務に携わりました。これらの業務を通じて、発災時における防災関係機関のオペレーションや自治体が行うべき役割を体系的に理解することができました。

また、発災時においては、大臣等による被災地視察が円滑に進むよう関係機関と調整を行うなど、国の災害対応に関わりました。時間的猶予がない中でのスピード感のある対応を肌で感じることができ、貴重な経験となりました。

この2年間の研修で培った経験と人脈は貴重な財産となりました。今後、奈良県での業務で活かしていきたいと思います。

氏 名：藤村 琢磨

派遣元：東京消防庁

派遣期間：令和3年4月～令和5年3月

所 属：災害緊急事態対応担当

災害緊急事態対応担当として、政府の特定災害対策本部・非常災害対策本部の運営など、緊張感のある政府の災害対応を経験するとともに、自然災害以外にも原子力災害や大規模な各種事故災害等の訓練等、普段携わることのない多種多様な業務を経験させていただきました。

これらの業務を通じて、災害対応のスピード感や各種情報の適切な処理、被災者目線に立った能動的な対応など、災害対応や防災の重要な視点を学ぶことができました。

今後、本研修で学んだ経験と人脈を活かし、「防災」・「減災」に向けて派遣元での業務に取り組んでまいります。

氏 名：栗田 徹朗

派遣元：静岡県 静岡市

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：災害緊急事態対応担当

災害緊急事態対応担当の一員として、既存の南海トラフ地震・首都直下地震具体計画等の改定と日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震具体計画の策定に係る業務、災害発生後における防災担当大臣等の被災地視察ロジに係る業務を主に携わりました。

計画関係の業務においては、文言や数値における根拠、チームとの意識合わせ、データ管理方法などの重要性を学ぶことができました。大臣視察ロジ関係の業務においては、スピード感のある国の対応を体感できました。特に台風第15号にかかる副大臣等現場視察（静岡県）では、派遣元との調整、視察への同行など、大変貴重な経験をさせていただきました。

内閣府防災での経験を市の防災対応業務に活かしていきたいと思います。

氏 名：須藤 佳穂

派遣元：大分県

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：災害緊急事態対応担当

災害緊急事態対応担当において、病院船事業や室内の総括業務に携わりました。業務を通じて、国や地方自治体、民間企業等も含め発災時の各機関の役割について理解が深まったとともに、実際に災害が起きた際に地方自治体職員としてどのように各機関と連携すべきか考えをまとめることができました。

また、発災時の初動対応について担当する災害緊急事態対応担当で研修ができたことにより、実際の災害時にどのように段取りをし、初動期の迅速な判断・対応につなげていくかというところを間近で勉強することができ、今後の災害対応に活用できる貴重な体験をさせていただいたと感じました。

内閣府にて、全国規模で広い視野を持って仕事に臨めたこと、民間・行政問わず様々な機関から出向されてきている職員の方と一緒に業務に取り組めたことは大変得難い経験であり、研修を通じて得た知識や人脈などを出向元での業務にも生かしていきたいと考えております。

氏 名：小林 拓斗

派遣元：長野県 茅野市

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：災害緊急事態対処担当

災害緊急事態対処担当として、発災のおそれ段階・発災後の対応や名簿・マニュアル管理に係る業務に携わりました。

これら業務を行いながら政府・各省庁の発災時の対応をみることができ、大変貴重な体験をすることができました。また、災害が起きた際に備え使える準備をしており、準備の大切さを実感するとともに、準備すべき内容のレベル感を学びました。

帰任してからは、防災業務を行うこととなっていますので、市民の安全・安心を第一に考え、防災・減災業務に取り組んでいきたいと思っております。

氏 名：伊勢田 長裕

派遣元：中部電力株式会社

派遣期間：令和2年8月～令和4年12月

所 属：地方・訓練担当

私は、地方・訓練担当にて「防災の日」総合防災訓練や緊急災害現地対策本部運営訓練等の企画・運営等を担当させて頂きました。また、令和3年7月1日からの大雨対応（熱海市）で総理視察の随行等の災害対応も経験させて頂きました。

研修を通じて学んだことは、災害時に関係機関と円滑な連携ができるよう平時から顔の見える関係を構築することです。他機関の方とは、文化や考えが異なるため、直接会ってお互いを理解しあうことで、対応が円滑になることを実感いたしました。

派遣元に戻ってからは、こちらでの経験を活かし、業務に励んでいきたいと思っております。2年5カ月間に亘り、貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

氏 名：長谷川 眞楓

派遣元：神奈川県 相模原市

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：地方・訓練担当

私は地方訓練担当において主に9月1日「防災の日」に実施しました政府の総合防災訓練や緊急災害対策本部事務局および緊急災害対策本部の運営訓練などの企画・運営に携わりました。

特に緊急災害対策本部事務局運営訓練においては、4年ぶりの状況付与型訓練であったため、シナリオや課題設定、また細部の調整などに苦勞しましたが他室・他機関のご協力もあり無事に訓練を実施することができ、やりがいを感じております。

また、訓練の企画を通して大規模災害時の政府の対応について大変勉強させて頂きました。

この1年を通して市役所では経験できない多くのことを経験させて頂き、また、訓練やOJT研修制度を通して様々な人脈を広げることができました。

内閣府で学んだ知識や経験、そして人脈を今後の業務にも活かしていきたいと思っております。

1年間ありがとうございました。

氏 名：山越 靖之

派遣元：東京消防庁

派遣期間：令和3年4月～令和5年3月

所 属：調査・企画担当

今まで、自身が属する組織の施策にしか目線が行っていなかったが、内閣府での研修を通して、大局的な視点を学びました。

今後、自身の組織に戻りましたら、多角的な視点で施策に携わってまいります。

氏 名：橋田 智弘

派遣元：山梨県

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：調査・企画担当

調査・企画担当で、各火山地域における火山防災体制の充実等に関する業務を行いました。

火山の噴火に伴う現象は、同じ火山であっても噴火の規模や形式が様々あり、火山活動が長期化、広域にわたり影響を及ぼすこともあり、噴火による被害を想定することは容易ではないおの特徴があります。被害を想定することができないからこそ、火山の特徴を踏まえた地域単位での火山防災対策の推進が重要なことや他災害を含め防災対策の推進が必要であると学ばしていただきました。

また、内閣府防災内で、多方面から出向している省庁、民間企業、自治体の方々と、同じ空間で業務の在り方を学べたことや、さまざまな意見を聞いたことは貴重な経験となりました。

氏 名：田端 駿樹

派遣元：和歌山県

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：調査・企画担当

私は調査・企画担当において、避難情報に関する業務と各種調査・照会等のとりまとめ等の総括業務に携わりました。

実務を経験して、他省庁との連携・調整、期限が短いからこそゴールから逆算して行動すること、他省庁の施策も理解することが重要であると思いました。

今回の研修で、様々な施策やその施策が進められている背景等を学ぶことができました。

また、様々な自治体との意見交換等を通して、自治体の悩みや先進的な取組を学ぶことができました。全国的な視点で業務を行うことで視野が広がり、防災分野での勤務が初めての私にとって

非常に有益なものとなりました。帰任後は今回の研修で得たことを活かすとともに、広い視野をもって業務に取組みたいと思います。

氏 名：服部 実佳子

派遣元：鹿児島県

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：調査・企画担当

国の施策を幅広く知る機会となりました。

内閣府での研修を通して、全国各地の取組を知ることができ、派遣元の現状を客観的に見る機会となりました。

氏 名：竹下 駿平

派遣元：広島県

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：防災計画担当

内閣府防災では、プロパーの職員が少ない中で、国の防災対策という大きな課題に取り組み、国民の生命に直に関わる責任感のある業務を行うことができます。

防災業務の経験がない自分からすると、自然災害はただ畏怖を抱くばかりでしたが、内閣府防災では、被害想定を分析し、より被害を少なくするための対策立案を行っており、知見がかなり広がりました。

行政実務研修員という立場で、業務の制約はあったものの、国としての動き方、考え方を習得することで、派遣元の業務に活かせるものがあると実感しました。今回の研修期間では、公私ともに防災意識を高めていく必要性と、具体的な防災対策などの行動を起こす決断力が身に付く良い機会となりました。

氏 名：牧 明宏

派遣元：KDDI（株）

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：防災計画担当

防災計画担当として、政府業務継続計画や首都直下地震対策に係る業務に携わりました。

特に、政府業務継続計画については各府省等の連絡窓口担当者や有識者との連携や調整が不可欠ですが、各府省等の担当者も2年間で異動することを知り、短期間で業務継続計画を理解し、改善を推し進めないといけないことに凄い能力があるなと感じました。

また、昨年度までは実施していなかった取組として、内閣府防災と親元であるKDDIとのグリップ強化策として、設備見学や意見交換会を開催致しました。これは来年度以降も継続して実施することで指定公共機関の災害対応への備えを紹介していきたいと思えます。

大変貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。この経験を活かし親元に帰任した後にも、災害発生時には、被災自治体や被災者の目線で災害対応を行っていききたいと思います。

氏 名：中澤 敏和

派遣元：（株）NTTドコモ

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：防災計画担当

防災計画担当として、首都直下地震対策や政府業務継続計画に係る業務に携わりました。

各省庁や多くの関係機関との調整や連携が必要であり、最初は戸惑いの連続でしたが、行政や国会等のしくみを一から学ぶことができ大変貴重な経験となりました。あらゆる事態に備え、中長期的に取り組んでいる内容についても、各省庁・関係機関が丁寧に取り組を進めていることを実感いたしました。また、災害時の自治体の皆様の業務量の多さには、驚かされました。このような貴重な機会をいただき大変ありがとうございました。

今後は、この経験を指定公共機関として、災害時に被災者、被災自治体に貢献できるよう通信の信頼性向上に取り組みたいです。

氏 名：榎本 藍子

派遣元：埼玉県 戸田市

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：普及啓発・連携担当

私は、普及啓発・連携担当にて、国民の防災意識向上に向けた国民運動業務、防災教育に関する業務、地区防災計画に関する業務等を担当しました。

業務を通して、全国各地の防災に関する取組を知ることができたり、防災の専門家や有識者の方々防災の担い手の方々とは広くつながりを持ったりしたことで、自分自身の防災意識が高まりました。

派遣元に戻ってからは、内閣府にて学んだこと、作ることができたつながりを大切にしながら、防災・減災活動の大切さを市職員や市民の皆様に普及していこうと思えます。

防災に関する情報は日々更新されていくので、アンテナを高く張って様々な情報を得ながら、意欲的に活動していきたいです。

氏 名：宇田川 真之

派遣元：国立研究開発法人 防災科学技術研究所

派遣期間：令和2年4月～令和4年3月

所 属：防災デジタル・物資支援担当

防災スペシャリスト養成研修事業の内閣府防災におけるOJT研修に2年間参加させていただきました。

所属部署では、国の職員の方々のほか、地方公共団体の方々、民間事業者の方々など、全国の防災にかかわる多様な方々との人事交流を図ることができました。

出向元に戻りました後、災害が発生した折には、2年間の研修のなかで得られた知見や、繋がりができた皆様との連携によって、研修受講前よりも適切な対応ができるようになったのではないかと思います。

有意義なOJT研修を受講させて頂き、ありがとうございました。

氏 名：遊佐 暁

派遣元：国立研究開発法人 防災科学技術研究所

派遣期間：令和2年4月～令和5年3月

所 属：防災デジタル・物資支援担当

特に災害発生時の現地情報支援において、国の災害対応がどのような形態で実施されているのかを身をもって学ぶことができたことが大変学び多い経験となりました。

また、災害情報の共有や流通について、平時より各機関と調整を実施し有事に備えることを担当したことで、平時～有事における災害情報流通の一連の流れを経験することができたこともまた大きな学びとなりました。

氏 名：佐治 亮宏

派遣元：東京ガス（株）

派遣期間：令和2年4月～令和5年3月

所 属：防災デジタル・物資支援担当

内閣府出向を言い渡された際、大切にしようと思ったことが、「どのような仕事をやるか」ということ以上に、「誰と仕事をし、どのように成し遂げるのか」ということでした。

様々な出自の方と仕事をするのが、私にとって大きな刺激であり、出向中の2年間でしかできないことを、経験させていただいたと思っています。

また、防災デジタル・物資支援担当は重い案件が非常に多かった印象です。2年間在籍させて頂いたことで、表面だけでなく、特に個人情報の指針については、0から中身に携わらせて頂きました。大変な事がほとんどでしたが、今となっては良い思い出です。

皆様と仕事をできたことが、私にとって財産となりました。2年間、ありがとうございました。

氏 名：滝野 大樹

派遣元：佐川急便（株）

派遣期間：令和3年8月～令和5年3月

所 属：防災デジタル・物資支援担当

私は、現場の配達員から内閣府へ出向という異動でしたので「デスクワークが初めて」からスタートし、国の仕事の責任感の重さを肌で感じながら業務を行いました。

物流の観点からアイデアを出すなど、自治体・省庁とのやり取り、予算、国会対応など、営業職では到底経験することない業務なので新しい世界を見ることができました。

また、様々な機関からの出向者と交流を深めかけがえのない人的ネットワークも築けました。様々な方と同じ業務を行うと、いろんなアイデアが生み出されるので打ち合わせが楽しいと感じることができました。

この経験を踏まえ出向元でさらに飛躍していきたいといます。貴重な経験させていただきありがとうございました。

氏 名：小野寺 将明

派遣元：神奈川県 大和市

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：防災デジタル・物資支援担当

室内での業務や各省との事務調整を進めていく中で、国の仕事の丁寧な進め方やスピード感を体験できました。

また、災害時の現地対策本部運営訓練を通じ体験（イメージ）できたこと

さらに、多方面から出向している省庁、民間企業、自治体の方々と防災の分野を通じて、同じ空間で業務の在り方を学べたことや、さまざまな意見を聞いたことはとても貴重でありました。

氏 名：山中 直

派遣元：㈱セブン-イレブン・ジャパン

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：防災デジタル・物資支援担当

この研修を通じて、出向元では絶対に経験できないことをたくさん経験させていただきました。

私が思う本研修の最大の特徴は、多種多様なキャリアを持つ方と一緒に仕事ができることです。

各省庁から集まった職員、全国津々浦々から集まった自治体職員、幅広い業界から集まった民間企業社員、若手からベテランまで、防災経験も異なる方と共に一緒に仕事が出来たことは非常に貴重な経験となりました。

また、この環境下で培った人脈は切望しても手に入ることは難しい人生の宝です。

他にも、国の業務を担当させていただくことでこれまでの自分には不足していた視点も持てるようになりました。

素晴らしい勤務環境面、広く深い人脈構築、新たな視点の獲得。この研修を通じて本当にたくさんの経験をさせていただきました。人生100回やり直しても経験できない貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

氏 名：広谷 大貴

派遣元：広島市

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：避難生活担当

避難生活担当で主にクラウド型被災者支援システムの担当をさせていただきました。このシステムは平時の避難行動要支援者名簿、個別避難計画から発災時の被災者台帳、罹災証明書の発行等まで一元的に管理するシステムであるため、発災後の自治体職員の動きについて学ぶことができました。また、災害ケースマネジメントの平時状況調査では、先進的な取り組みを実施している自治体にヒアリングを行い、現場レベルの生の声を聞くことができ、参考になるものが多くあったと思います。

他都市の研修生とも業務内外で交流できたため、貴重な経験をすることができました。

帰任後は市の防災担当として防災の最前線に立つ形になりますが、この1年間の経験を活かしていけたらと思っています。

氏 名：草間 裕介

派遣元：茨城県 常総市

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：避難生活担当

私は避難生活担当として、個別避難計画に関する業務、発災時の避難所調査、国会対応など様々な業務を経験させていただきました。

特に、個別避難計画作成モデル事業の事務局として、会議や成果発表会におけるロジ周りの調整、資料の作成、報告書のとりまとめなどを行いました。また、モデル事業の成果を全国の自治体に共有するため、個別避難計画作成モデル事業ポータルサイトの管理を行いました。

モデル事業を実施していく中で、市町村で仕事しているだけでは到底知り得ない、全国の様々な優良事例や、市町村担当者の切実な悩み、抱える課題に触れることができました。

帰任後は、市町村の防災担当として、今度は実際に個別避難計画作成を進めていく立場となりますので、内閣府の研修で得られた知識や人脈をいかして、取組を前進させていきたいと思っています。

1年間、ありがとうございました。

氏 名：佐々木 哲也

派遣元：福島県

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：被災者生活再建担当

私は、被災者生活再建担当として、災害弔慰金法や災害救助法の業務に携わりました。

発災時には、災害救助法の適用、災害救助法を適用した被災自治体に対して、住宅の応急修理等の救助の実施にあたって制度が適正に運用されるよう助言、また、平時には、災害援護資金の政令改正等、制度を所管する立場として、様々な貴重な経験をさせていただきました。

また、被災者の早期の生活再建を図るため被災県とともに昼夜問わず業務を行う姿や、意思決定や業務のスピード感に触れられたことは、今後の県職員人生を送っていく上でも大変刺激になりました。

この1年間の内閣府防災での研修で得た知識や経験を活かして、福島県の防災行政や復興に貢献してまいります。

氏 名：齋藤 知宏

派遣元：大阪府 吹田市

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：被災者生活再建担当

私は被災者生活再建担当として、令和4年4月から主に災害救助法に関わる業務に携わりました。

派遣前、救助法についての認識は、国庫負担があることや一般基準、特別基準がある程度でしたが、実務で救助法に関わることで法律の理解はもとより、適用に至るまでのプロセス、法律等に基づいた救助項目の適切な運用を学ぶことができました。

救助法による救助は法律事項ですので、厳格な運用が必要な場合もありますが、災害時には想定できないことが起こり、救助の柔軟な運用が求められるときもあります。その際には、法の趣旨に沿って、被災者のためにどうするのがよいか議論や整理をしながら対応し続けた1年となりました。

今後は内閣府での経験を活かして、市民に近い立場で防災に携わっていければと考えています。

氏 名：富田 翔也

派遣元：埼玉県 行田市

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：被災者生活再建担当

私は、被災者生活再建担当において、発災後の応急救助に対応する主要な法律として被災された方の生活再建・住宅再建を支援する災害救助法の業務に従事しました。災害救助法の業務を通じ、微力ではありますが、被災された方の生活再建に寄与できたことを大変嬉しく思います。

在任期間中は、発災直後の災害救助法の適用から救助終了までの一連の業務を経験させていただき、被災者支援の難しさを実感するとともに、自治体における事前準備を含めた初動対応の大切さをあらためて認識しました。

親元とは業務の進め方や文化が異なり、戸惑うこともありましたが、災害救助法の実務のほか、業務に対する姿勢や考え方など、多くを学ぶことができた1年間でした。

親元では、派遣前に引き続き、防災に関する業務に従事する予定ですので、内閣府防災で得た知識・経験を活かし、親元の災害対策を推進していきたいと考えております。

氏 名：佐々木 皓平

派遣元：千葉県

派遣期間：令和4年4月～令和5年3月

所 属：復旧・復興担当

復旧・復興担当として激甚災害法に基づく激甚災害の指定に関する事務等を担当いたしました。

激甚災害法は様々な法令が関連しており、指定に係る事務やレク等を通して条文を正確に読み込み、適切にアウトプットしていくことで、防災の実務のみならず、その根拠となる法令の運用についても深く学ぶことができました。

また、発災後は早期の指定を求められる中で、関係省庁とも連携した国の組織としての対応の迅速さを目の当たりにするとともに、平時からの事前準備の重要性を実感することができました。

内閣府防災で様々な機関からの出向者の方とともに仕事できたことは得難い経験であり、今回学んだことを本県の防災行政にも活かしてまいりたいと思います。一年間大変お世話になりました。